

2021 年度  
東京大学大学院情報学環  
教育部シラバス

## 特別講義 I (教育部概論)

佐倉統教授、上村鋼平特任講師、暦本純一教授  
川越至桜准教授、酒井麻千子准教授、上條俊介准教授

S1S2 ターム 水曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A701001

### 授業の目標・概要

まず、ユニークな特性を持つ教育部というプログラムの歴史を跡づけ、そこで研究生になるということの意義を確認する。

そのうえで、情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね 2 回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説するわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環、および教育部の全体像を理解してもらうために 2013 年度にはじめて開講された授業。1 年生はなるべく履修してほしい。

### 参考文献

・各講師が適宜、紹介、説明する。

### 授業計画

第 1 週	4/7	予備日
第 2 週	4/14	佐倉 統 (文化・人間情報学コース)
第 3 週	4/21	佐倉 統 (文化・人間情報学コース)
第 4 週	4/28	上村 鋼平 (生物統計情報学コース)
第 5 週	5/11	上村 鋼平 (生物統計情報学コース)
第 6 週	5/19	暦本 純一 (総合分析情報学コース)
第 7 週	5/26	暦本 純一 (総合分析情報学コース)
第 8 週	6/2	川越 至桜 (先端表現情報学コース)
第 9 週	6/9	川越 至桜 (先端表現情報学コース)
第 10 週	6/16	酒井 麻千子 (社会情報学コース)
第 11 週	6/23	酒井 麻千子 (社会情報学コース)
第 12 週	6/30	予備日
第 13 週	7/7	予備日
第 14 週	7/14	予備日

## メディア・ジャーナリズム論講義Ⅲ

(ドキュメンタリーを見て考える「ニッポンの問題」)

丸山 拓 講師  
(TBS)

A1A2 ターム 木曜5限(2単位) 時間割コード: 5A101003

### 授業の目標・概要

TBSテレビの報道局で、社会部デスク、外信部デスク、「報道特集」「NEWS 23」のディレクター、ドキュメンタリー番組「報道の魂」のプロデューサーを務めた講師が、自分の取材・番組制作体験をもとに、時にはゲストを交えながら、冤罪事件、戦争の記憶、原発、災害報道など様々な問題を皆さんと議論し、メディアとジャーナリズムの課題について考えていきます。

### 教科書

特にありません

### 参考書

必要に応じて授業内で紹介します

### 授業計画

- 第1週「冤罪事件は、なぜ起こるのか？」
- 第2週「原発は安全で必要なエネルギーなのか？」
- 第3週「他人が行かない国に取材に行こう！」
- 第4週「戦争の記憶は語り継がれてゆくのか？」
- 第5週「災害報道に必要なものって何だろう？」
- 第6週「ラジオドキュメンタリーの可能性を探ろう！」
- 第7週「過去の名作から学ぼう！」
- 第8週「天気予報で『減災』は可能になるのか？」
- 第9週「キャスターの役割とは何だろう？」
- 第10週「コロナは、どう報じられてきたか？」
- 第11週「取材対象者と、どう向き合うか？」
- 第12週「どんなジャーナリストを目指すのか？」
- 第13週「最後だから色々な事を一緒に話そう！」

\*ゲスト等により日程を変更する可能性があります

## 情報社会論実験実習V

(テクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザイン)

渡邊 英徳 教授

A2 ターム 月曜4・5限(4単位) 時間割コード: 5A304005

### 授業の目標・概要

本講義では、私たちの身の回りに浸透しつつあるテクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザインについて、グループワークによる実践を通して考えます。VR・ARなどの、かつて先鋭的だったテクノロジーは、徐々に社会に浸透し、コモディティ化しつつあります。例えば、デジタルアースを使って地球の裏側の街を探索したり、スマートフォンカメラに映し出されたAR空間にモンスターを探すといった経験は、私たちにとって、すでに日常的なものになっています。こうしたコンテンツを、「ユーザ」としてただ利用するだけではなく、独自の視点をもつ「クリエイター」として、新たなプロダクトをつくりだすことによって、テクノロジーが人と社会に与える影響について、より深く考え、投企することができるはずですが。本講義では、テクノロジーを活かしたコンテンツの中でも、特に「デジタルアーカイブ」のデザインに、それぞれグループで取り組みます。

### 参考書

渡邊英徳：「データを紡いで社会につなぐ」, 講談社, 2013年

### 授業計画

授業期間中に、2つのデジタルアーカイブ制作課題に取り組む予定です。履修者のスキルに合わせて、課題の内容を決定します。

# メディア・ジャーナリズム論実験実習IX

(ドキュメンタリー制作入門)

日笠 昭彦 講師

(元日本テレビ「NNNドキュメント」プロデューサー・L L C創造ノ森 代表)

A1A2 ターム 木曜6限(4単位) 時間割コード: 5A104009

## 授業の目標・概要

この授業は福武ラーニングシアター(福武ホールB2階)にて毎回「対面」で実施します。3~5人でチームを編成してリサーチ~撮影~編集を繰り返しながら20分程度のドキュメンタリー作品を制作。映像ジャーナリズムを体感します。授業ではTVプロデューサーである講師が制作上の助言をしますが、取材交渉や撮影・編集は授業外の時間に進めてもらいます。取材活動は主に大学構外で行うことになります。その時間を確保できない人は単位の取得が難しいと考えてください。なお、完成作品は各映像コンクールに出品し客観的な評価を得ます。

\*ー昨年は「地方の時代 映像祭」優秀賞を受賞

## 参考書

「映像メディアのプロになる！」奥村健太・藤本貴之著/藤原道夫監修(河出書房新社)

「書く力~私たちはこうして文章を磨いた~」池上彰・竹内政明 著(朝日新聞出版)

## 授業計画

- 10/7 ガイダンス「実習授業の概要と進め方」
- 10/14 講義「ドキュメンタリーの作法」◇企画~リサーチ~撮影 編◇
- 10/21 受講者による企画案の発表~選考
- 10/28 メディアスタジオにて撮影機材のトレーニングワークショップ/班分け~役割と制作スケジュールの共有
- 11/4 リサーチ~撮影~構成を繰り返し、映像を記録していく
- 11/18 リサーチ~撮影~構成を繰り返し、映像を記録していく
- 11/25 リサーチ~撮影~構成を繰り返し、映像を記録していく
- 12/2 講義「ドキュメンタリーの作法」◇構成~編集~仕上げ 編◇
- 12/9 映像をチェックしながら構成~編集~追加撮影
- 12/16 映像をチェックしながら構成~編集~追加撮影
- 12/23 中間試写/テロップ・ナレーション原稿等を精査
- 1/6 ナレーションや音楽をミックスし、完成形に近づける
- 1/13 ナレーションや音楽をミックスし、完成形に近づける
- 1/20 作品を完成させる
- 1/27 完成試写/作品の上映と講評~制作実習のふりかえり

## メディア・ジャーナリズム論研究指導Ⅲ

(災害情報・調査法：東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・研究)

関谷 直也 准 教授

S1S2 ターム 月曜6限(4単位) 時間割コード：5A103003

### 授業の目標・概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から10年が経過しようとしています。この震災、原子力事故の被害、復興の課題、困難をどのように伝えていくか、これは非常に大きな課題です。

ジャーナリズムを学ぶみなさんにとっても、この課題は今後数十年続いていくことになり、現在の10年の課題を理解しておくことは、また①福島原発事故や東日本大震災の教訓をどう伝え、今も残る課題にどう対処すべきか、②今後の災害や危機を考える上で基礎として、③さかのぼって広島・長崎の原爆、沖縄問題などをどう考えていくべきかを考える契機にもなる非常に重要なタイミングだと考えています。

この演習では、夏休みの3日間に東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設を訪れ、「災害を伝承していくこと」「災害をコミュニケーションしていくこと」を考えてもらいます。

前提知識は必要としませんが、研究指導ですので本テーマに関心・興味があることを前提とします。

### 参考書

授業中に指示

### 授業計画

下記、(1)～(4)のガイダンス、現地見学、報告会のすべてに参加することを条件とする。

なお、事前学習としてオンデマンド教材を提供する。

#### (1) ガイダンス1

4月12日(月) 6限18:45～

#### (2) 現地におけるフィールドワーク及び講義

未定・1日目 東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館見学(4講義分)

未定・2日目 東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設見学(5講義分)

未定・3日目 講話(2講義分)、解散

#### (3) 報告会

未定 ※受講生と相談の上決定

## 情報産業論講義Ⅹ

(情報産業を駆動させるコミュニケーションとしての「広告」の本質を探る。)

植村 祐嗣 講師

(株式会社 電通)

S1S2 ターム 月曜5限(2単位) 時間割コード: 5A201010

### 授業の目標・概要

「広告」とは、広告主からの一方的な宣伝行為ではなく、企業と消費者との相互コミュニケーションとなっていなければ機能しません。

また「広告」とは、市場経済やマーケティングの潤滑油であり、新旧メディアやプラットフォーム経営の源泉であり、同時に貧富の差なくジャーナリズムやエンタテインメントを大衆に届ける役割を果たしています。

そのような「広告」の役割の本質に着目することで、そもそもコミュニケーションとはどうあるべきかを広く考察し、各自の人生観に活かしてもらいます。

### 参考書

日本インタラクティブ広告協会 (JIAA) 編著「必携 インターネット広告」(2019 インプレス)

### 授業計画

- 第1週 前提: 大学とは何か、実社会とは何か
- 第2週 概論: コミュニケーションとは何か
- 第3週 「I love you」は伝わるのか=価値提供
- 第4週 選ばれるために足りないこと=差別化
- 第5週 相手を知り、己を知る=相性
- 第6週 広告とは何か、広告の「7W1H」
- 第7週 企業経営における広告・販促・広報・PR
- 第8週 広告業界、広告ビジネス
- 第9週 GAF A等の広告(関連)戦略
- 第10週 法律・行政指導=業界自主規制=企業倫理
- 第11週 ネット広告のダークサイド
- 第12週 そもそもメディアとは何か
- 第13週 補遺、質疑応答

## 情報技術論実験実習Ⅱ

(東京大学制作展)

苗村 健 教授

通年 水曜 4 限 (4 単位) 時間割コード: 5A404002

### 授業の目標・概要

メディアやコンテンツの研究に取り組む学生を対象として、通年で開講する。7 月と 11 月に展示会を開催するために、さまざまな表現手法を学び、それぞれが作品を制作する。また、受講者は企画や運営上の役割を担い、ディスカッションを通して展示全般のプロセスを実践する。最終的には、活動の概要をまとめたアーカイブ冊子を刊行する。

### 教科書・参考書

なし

### 授業計画

- 4 月 役割分担・7 月展示 (Extra) に向けたコンセプト確定
- 5 月 Extra の広報発信・作品制作
- 6 月 Extra の運営準備・作品制作
- 7 月 Extra 開催
- 8 月 オープンキャンパス出展・11 月展示 (制作展) に向けたコンセプト確定・作品制作
- 9 月 作品制作
- 10 月 制作展の広報発信・運営準備・作品制作
- 11 月 制作展開催
- 12 月 アーカイブ冊子の製作
- 1 月 アーカイブ冊子の完成

# メディア・ジャーナリズム論講義Ⅱ

(もうひとつのジャーナリズムを求めて)

河原 理子 講 師

(元朝日新聞社)

A1A2 ターム 木曜4限(2単位) 時間割コード: 5A101002

## 授業の目標・概要

2020年まで朝日新聞記者をしてきた講師と一緒に、「共感的理解」を手がかりに、ジャーナリズムの果たすべき役割について考えます。苦境にある人たちのことを伝えるのも、ジャーナリズムの大切な役割です。とはいえ「わかる」ことは簡単ではありません。何をどう社会に伝えるのか、多角的に考える力を養います。実際にインタビューをして、皆さんに書いてもらう予定で、それに向けてリサーチするなど準備をします。各回の内容は変更する可能性があり、第1週に改めてお示しします。

## 参考書

『〈犯罪被害者〉が報道を変える』河原理子・高橋シズエ編、2005年、岩波書店

『戦争と検閲 石川達三を読み直す』河原理子、2015年、岩波新書

『〈オンナ・コドモ〉のジャーナリズム ケアの倫理とともに』林香里、2011年、岩波書店

## 授業計画

第1週 ガイダンス 記者の仕事と倫理

第2週 事実と真実

第3週 「寄りそい報道」「共感報道」が求められるとき

第4週 「寄りそい報道」「共感報道」の限界

第5週 戦争と報道

第6週 昔の新聞を読んでみる～誰の視点から書いているか

第7週 日常のなかに潜む問題を可視化する～ ①性暴力被害の取材と報道

第8週 ②ハンセン病検証会議報告と強制不妊手術

第9週 ③犯罪被害者について知る

第10週 インタビューとその準備

第11週 ひとの話を聴く

第12週 苦境にある人を取材する意味

第13週 まとめ

## 情報社会論講義VI

(～メディアや現場を「編集」する～)

森 禎行 講師  
(Yahoo)

A1A2 ターム 水曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A301006

### 授業の目標・概要

◇ヤフーや LINE などネットメディアの最新の動きや、「学生が最も行くべき場所」と考える「先端地・福島」で今おきている動きを主な題材に、これからの「情報社会」を考え、実践します。

◇講師は、毎日新聞記者と Yahoo!ニュース編集という新聞とネットメディアの2つのメディアを経て、復興支援や別の副業にも従事しています。これら知見を踏まえ、「誰もが編集者」の時代において、デジタルと現場の双方を重視した「発見」「伝え方」を学び、課題解決を考察します。

◇まずはヤフーと LINE という日本で影響力の大きなネットメディアの取り組みと役割を学びます。

◇またコロナ感染防止に配慮しながら、期を通して、現場に関わる「しかけ」を提案します。特に「最先端のまち」で始まった、大学生など 20 代以下限定の人材育成と起業プログラム (通称 NASA プロジェクト) を通した課題解決を模索します。

◇授業は、福武ホール含めたハイブリッド講義と、福島・長崎などからのオンライン講義を予定。希望者は、個別に訪問同行しての講義出席や現場実践が可能です。現場や情報を編集する楽しさを体感したい、積極的な学生をお待ちしております。

### 教科書・参考書

・ The Food Camp～ふくしまからはじまる、おいしい革命～

<https://izumigamori.stores.jp/items/60cad894933e9b7a010916b2>

### 授業計画

第1週：オリエンテーション (講義の方針/フィールドワークの説明など)

第2週：ネットメディアを編集する (1) ～Yahoo!ニュースの「中の人」

第3週：ネットメディアを編集する (2) ～「命を守る」ネットメディア。災害対応のいま

第4週：ネットメディアを編集する (3) ～LINE NEWS の裏側

第5週：「最先端のまち」を編集する (1) ～いま、大学生が集う場

第6週：「最先端のまち」を編集する (2) ～日本一の「フロンティア」での実践

第7週：「最先端のまち」を編集する (3) ～元東電社員が取り組む、国内外へ向けた発信と学び

第8週：食はメディア (1) ～環境省「グッドライフアワード」受賞。畑から伝える本物の価値

第9週：食はメディア (2) ～有名シェフの「発見」

第10週：食はメディア (3) ～「日本一の酒どころ」の伝え方

第11週：首都圏から雪浦へ～「地人」を選んだ研究者

第 12 週：雪浦の魅力～ある研究者の本棚が長崎県にある理由

第 13 週：まとめ

## 情報技術論講義Ⅹ

(社会インフラを支えるサイバーフィジカルシステム)

片岡 欣夫 講師  
(株式会社東芝)

A1A2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A401010

### 授業の目標・概要

ライフラインや産業を支える社会インフラは昨今、IoT技術の活用により、サイバー空間と連携して分析や制御を行うサイバーフィジカルシステム(CPS)化が進んでいる。本講義では、これら社会インフラが抱える課題、CPSによる解決の取り組み、具体的な事例や注目される最新技術を紹介する。さらに受講者との議論を通じ、より安心・安全で快適な人々の社会生活を目指すためにどのような技術を実現していくべきかを考える。受講を通じ、社会インフラ向けのCPS技術に馴染んで頂く。

### 教科書・参考書

島田太郎, 他, "スケールフリーネットワークものづくり日本だからできるDX," 日経BP社(2021)

福本勲, 他, "デジタルファースト・ソサエティ 一価値を共創するプラットフォーム・エコシステムー," 日刊工業新聞社(2019年)

### 授業計画

- 第1週: 【概要】 イントロダクション
- 第2週: 【概要】 社会インフラとCPS
- 第3週: 【社会展開例】 CPS応用事例①
- 第4週: 【関連技術】 通信・ネットワーク①
- 第5週: 【関連技術】 AI①
- 第6週: 【関連技術】 デバイス①
- 第7週: 【討議】 CPSを用いたインフラサービスの検討①
- 第8週: 【社会展開例】 CPS応用事例②
- 第9週: 【関連技術】 通信・ネットワーク②
- 第10週: 【関連技術】 デバイス②
- 第11週: 【関連技術】 AI②
- 第12週: 【討議】 CPSを用いたインフラサービスの検討②
- 第13週: 【クロージング】 講義まとめ

## 情報技術論講義IX

(ヒューマンコンピュータインタラクション概論)

濱田 健夫 特任講師 ・ ハウタサーリ アリ 特任講師

S1S2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A401009

### 授業の目標・概要

我々はテクノロジーに囲まれ日々の生活を便利に過ごすことができているが、テクノロジーを利用するためにはユーザとの間を取り持つインタフェースが不可欠である。ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) はインタフェースを介してどのようにコンピュータと関わり利用するかについて焦点を当てた学際的学問分野である。この分野の研究成果を知ることでテクノロジーのデザイン手法を学ぶことができる。

本講義では HCI に関する幅広い研究トピックスを交えてデザイン原理や方法論について紹介するとともに、バーチャルリアリティ (VR) 技術を使ったグループワークを通して、インタラクションデザインの実習を行う。

### 参考書

『The Design of Everyday Things』, Don Norman

『オーグメンテッド・ヒューマン』, 暦本 純一

『VRは脳をどう変えるか? 仮想現実の心理学』, Jeremy Bailenson

### 授業計画

- 第1週 (4/6) オープニング, History of HCI
- 第2週 (4/13) User Interface / Experience / Interaction Design (UI / UX)
- 第3週 (4/20) Computer-Mediated Communication (CMC) and Affective Computing
- 第4週 (4/27) Computer-Supported Cooperative Work (CSCW) and Social Media
- 第5週 (5/11) Augmented / Virtual / Mixed Reality (AR / VR / MR)
- 第6週 (5/18) Human Augmentation / Cyborg / Wearable Computing
- 第7週 (5/25) Artificial Intelligence (AI) and Internet of Things (IoT) in HCI
- 第8週 (6/1) HCI Methodology (ゲストスピーカー)
- 第9週 (6/8) 【対面形式】 アイデア出し, チームビルディング (グループワーク)
- 第10週 (6/15) Interaction Design in VR (講義、グループワーク)
- 第11週 (6/22) Designing with VR (グループワーク)
- 第12週 (6/29) Designing in VR (グループワーク)
- 第13週 (7/6) Designing for VR (グループワーク)
- 第14週 (7/13) 【対面形式】 最終発表会 (グループワーク)

# 情報産業論実験実習VI

(出版・メディアビジネスと編集者の近未来)

谷口 優 講師  
(株式会社宣伝会議)

A1A2 ターム 火曜6限(4単位) 時間割コード: 5A204006

## 授業の目標・概要

出版市場に目を向けると、市場は縮小を続けています。しかし、出版の中でも特に雑誌に着目すると「販売収入を得る」以外の新しいビジネスモデルが国内外で次々と生まれています。本講義では、最前線の出版ビジネスの動向を探求しながら、そこにおける「編集者」の仕事の近未来について考えていきます。編集企画の立案・取材・執筆の実技も講義内で実施します。

また講義名で「出版」と銘打ってはいますが、講師がマーケティングの専門誌の編集長をしていることから、雑誌の「編集者」としての視座に加え、担当メディアの専門領域である、広告・メディアビジネスについても、テレビ、ラジオ、新聞、さらに Web メディアと幅広く扱う予定です。この講義では、講師から出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方についての「仮説」を皆さんに提示していきますので、その仮説について、皆さんなりの考えをディスカッションを通じて発表してもらいたいと考えています。そして、講義を通じて、出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方について、自分なりの仮説を持ってもらうことを到達目標としています。

## 参考書

該当するものを随時講義内で紹介

## 授業計画

### 【①座学+ディスカッション】

1. オリエンテーション (講義の方針/講師が携わる仕事内容についての紹介)
2. 日本のメディアビジネスを取り巻く今日的課題 (マーケティング/広告ビジネスの観点から)
3. 国内外の出版社・新聞社における新たなビジネスモデル研究
4. 企業のマーケティング戦略の変化とメディア企業の新たなビジネス
5. 消費者の情報収集行動を踏まえたメディア進化
6. 編集者の仕事研究 (書籍/雑誌/Web メディア)
7. 企業とコンテンツメーカーの新しい関わり (変化する編集者の仕事、編集力が生きる新たな場)
8. 出版ビジネスにおける新しいマネタイズ方法 (雑誌メディアの特性から考える)

### 【②ワークショップ+実技】

- 9~10. 編集コンテンツ制作ワークショップ① 編集会議 (アイデア発想)
- 11~12. 編集コンテンツ制作ワークショップ② 編集会議 (構成案作成)
13. 編集コンテンツ制作ワークショップ③ 取材の仕方
14. 編集コンテンツ制作ワークショップ④ 記事執筆の仕方
15. 編集コンテンツ制作ワークショップ⑤ デザイン・レイアウト・文字校正

# メディア・ジャーナリズム論講義Ⅰ

(体験的・実践的ジャーナリズム入門)

福永 宏 講師

(元・読売新聞社/元・東洋経済新報社・情報学環同窓会副会長) 他

A1 ターム 金曜 5・6 限 (2 単位) 時間割コード: 5A101001

## 授業の目標・概要

東京大学新聞研究所・社会情報研究所・情報学環教育部同窓会は教育部の出身者による講義を本年度も実施する。現在、新聞、放送、雑誌などのいわゆる「既成メディア」は、知識人、種々の政治勢力、統治権力、一般大衆などさまざまな方面から批判を受けている。これはわが国のみならず、米国でもみられるように世界的な現象といえる。さらに、経済的にもネットメディアに追い上げられて部数、視聴率、広告収入などの経済的面でかつてない厳しい状況に直面しており、こうした傾向は今後、さらに強まると考えられる。そこで本講義では、ネットメディアを含むジャーナリズムやメディアの現場で活動している本教育部出身者が自らの直接的な体験を踏まえ、現在の言論界の状況やジャーナリズムが置かれている実情を紹介・解説し、受講者と討論する。将来、メディアやジャーナリズム分野へ進もうと考えている者はもちろん、他分野への就職を考えている研究生にとっても、「現在」を理解するために有益な体験となるであろう。

## 参考書

『石橋湛山評論集』石橋湛山著／岩波文庫

『「ポスト真実」にどう向き合うか』八巻和彦編著／成文堂

## 授業計画

- 第1週 概論—言論/メディアと社会
- 第2週 体験的新聞論Ⅰ
- 第3週 体験的新聞論Ⅱ
- 第4週 体験的新聞論Ⅲ
- 第5週 体験的放送論Ⅰ
- 第6週 体験的広告論
- 第7週 体験的映画論
- 第8週 体験的放送論Ⅱ